

Japanese Unexamined (Kokai) Utility Model No. 57-12006
Application for a New Utility Model Filed: June 23, 1980

1. Name of the Utility Model: Shoe Heel
2. Author of the Utility Model: Same as Applicant
3. Applicant: Shigeru Chida

Scope of the Claims of the New Utility Model

A shoe heel, characterized by the fact that a horizontal cutout is formed from the rear part of a heel enabling an optional height of the heel, while at the same time, the rear part of the heel is formed in the circular arc shape;

wherein a circular column-shaped unit is formed, which fits into this cutout part created in the rear part of the heel, cut out as a radial circle having the circular arc shape;

a convex protrusion or a hole is created in the central part of the circular column-shaped unit, and a hole or a convex protrusion is deployed, which fits said convex protrusion or said hole created in the central part of the indent part of the heel.

4. Brief Description of Figures

The figures indicate an embodiment of the utility model. Figure 1 is a planar view of the bottom of the shoe, Figure 2 shows a perspective view of one embodiment of the utility model, and Figure 3 shows a perspective view of another embodiment with the circular columnar shape.

1	...	heel	2	...	circular column unit
3	...	convex protrusion	4	...	cutout part
5	...	hole	6	...	spring

THIS PAGE BLANK (USPTO)

公開実用 昭和57-12006

18



実用新案登録料 (1)

昭和55年6月23日

特許庁長官 川原能雄 殿

1. 考案の名称

靴の踵

2. 考案者

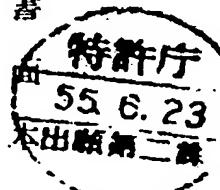
住所 「実用新案登録出願人と同じ」
氏名

3. 実用新案登録出願人

〒229
住所 神奈川県相模原市元橋本町14-20
氏名 地 田 茂

4. 添付書類の目録

- (1) 明細書 1通
- (2) 図 1通
- (3) 願書副原本出願第三類 1通



55-186895

11-506

明細書

1. 考案の名称

靴の踵

2. 実用新案登録請求の範囲

踵の高さの任意の高さを踵のうしろ部より水平に切ると共に踵のうしろ部を円弧状に形成し、その円弧状の半径の円で切った踵のうしろの切欠部とこれに嵌合する円柱状体とを形成し、円柱状体の中央部に凸起または穴を設け踵の切欠部の中央部に上記凸起または穴と嵌合する穴または凸起を設けたことを特徴とする靴の踵。

3. 考案の詳細な説明

本考案は靴の踵の改良に関するものである。さらに詳しくは、靴（例えば革靴、長靴、サンダル等の踵を行する履物）の踵の片減りを解決することを目的とした靴の踵に関する。

周知のように、靴は最初は片減り（踵が平に減らなく左右どちらかが減る現象）しなくてよいのであるが、1～2ヶ月位履いていると、段々と踵が片減りしてくる。一般にその減り方は、外側の

(1)

11-6

方が多く減ってしまう傾向がある。

そこで、従来は、金属片を踵に打付ける等の方法がとられているが、金属片を踵に打付けておくと硬い所例えばアスファルト、コンクリート、またはタイル等の舗装した所を歩いたときはカチン、カチンという音が発して不快感を与えると共に金属片を打付けている釘の頭が減つて釘の奥の方にささつてしまふという欠陥があつた。また、踵が片減りするという人は踵をそれなりに使うものであり、舗装道路を歩いているとき特に雨降り等のときは、水道栓の蓋等を踏んだとき滑つて転んでしまうか転ばないまでも足を擦りてしまうという欠陥があつた。

そこで、本考案は、このような欠陥のない手でもつて着脱可能でまた回転させることができる靴の踵を提供するものである。

以下、図示の実施例について説明する。

第1図は靴底の平面図で、靴の踵1には、円柱状体2が設けてある。この円柱状体2は、第2図に示すように、その中央部に凸起3を有している。

また、靴の踵1には、上記円柱状体2と嵌合する切欠部4が形成してあり、その中央部には、上記凸起3と嵌合する穴5が穿設してある。図面の実施例では、円柱状体2に凸起を設けたものが記載されているが、凸起でなく穴を設け、踵の切欠部に凸起を設けてもよい。また凸起及び穴は円柱が一番良いが多角形に形成してもよい。また、凸起及び穴は、複数本の螺旋を行する螺旋子であつてもよく、第3図に示すように凸起に一端が止着されているバネ6を設けてもよい。

また、上記切欠部4は、踵1が円柱状であるときは踵1全体が切欠部4の代りになるので切欠部4イコール踵1になり、切欠部4を設けるときは、踵の平面が円でないときである。また、切欠部4は、踵の高さの任意の高さのところを水平に切つた方が体裁がよく外観を損うことなく、円柱状体2の高さは、上記切欠部4の高さと同じくすればよい。

なお、本考案は靴の踵がゴム製、合成樹脂製である場合は金型を成型すれば、簡単に製造するこ

とができる。

以上で明らかなように、本考案は着脱可能な靴の踵であり、円柱状体2の位置を変えることにより片減りの目立つのを防止することができると共に、靴が履けなくなる迄即ち底がすれ切れる迄体重よく履ける靴である。

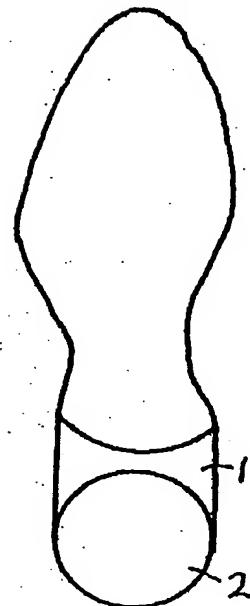
4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例であり、第1図は靴底の平面図、第2図は本考案の一実施例の斜視図、第3図は円柱状体の他の実施例の斜視図である。

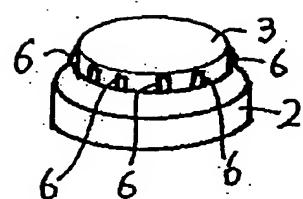
1 …… 跖	2 …… 円柱状体
3 …… 凸起	4 …… 切欠部
5 …… 穴	6 …… バネ

実用新案登録出願人 地 田 茂

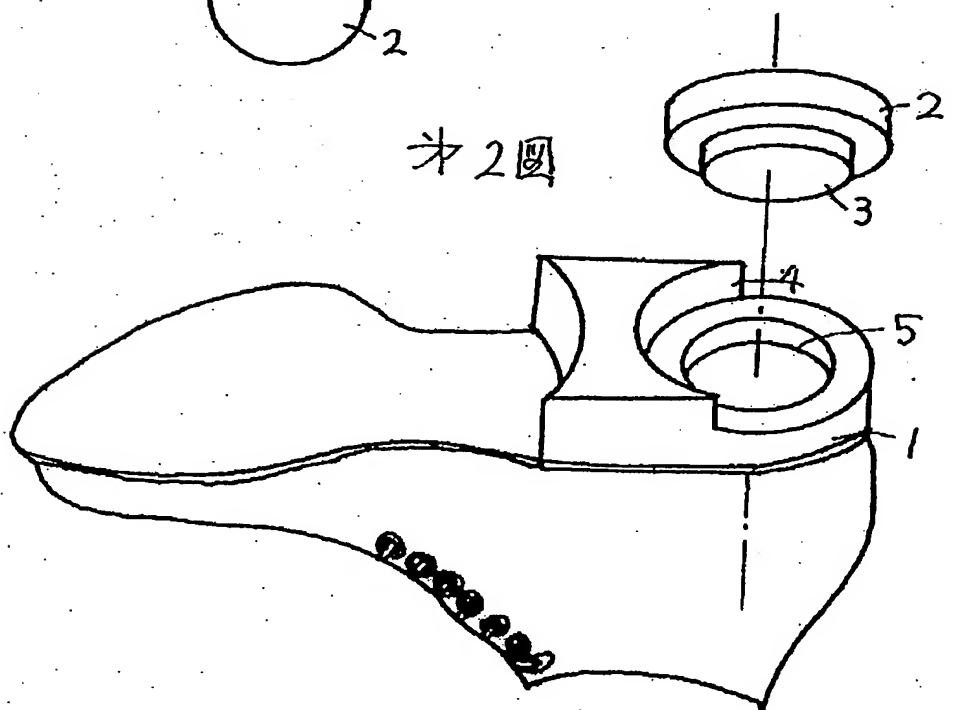
第1圖



第3圖



第2圖



12006

实用新案登録出願人 地田茂

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.
As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

THIS PAGE BLANK (USPTO)